



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	昭年四十五年度行事報告
Citation	基督教学, 6, 46-47
Issue Date	1971-07-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46270
Type	other
File Information	6_46-47.pdf



Ruf der Freiheit durchzieht die Kirchengeschichte. S. 8) であり、ケーゼマンによると、その「戦い」は、

あらゆる世代において、あらゆるキリスト者の生において絶えずになわれねばならないのである (S. 9)。

本書において、ケーゼマンは、しばしば、「我々の世代」、「私の世代」という表現を用いている。そして、至るところで、第二次大戦下のドイツにおける特殊な状況と体験とが語られている。それらの叙述は、我々の国における我々の世代の我々の状況との根本的相違性を我々に確認せしめるとともに、我々自身が、それぞれの生の現実の只中から、「自由の叫びへの戦い」を新たに始めるべきことを暗示していると思われる。本書におけるケーゼマンの「自由の叫び」(der Ruf der Freiheit) は、すべてのキリスト者を、この戦いへと導き、鼓舞せしめるものである。まさしく、本書は、召喚と論争の書であると言えよう。

(滝沢武人)

昭和四十五年度行事報告

○第九回大会 七月十三日 於・藤女子大学

理事會
總會

昭和四十四年度行事、会計、会計監査報告

議 題

- 一、役員改選の件
- 二、公開講演会の件
- 三、次期大会の件
- 四、「基督教学」第六号発行に関する件

總會決定事項

一、新役員は次の通りとする。

〔會 長〕 中川秀恭

〔会計監査〕 海老沢義道

〔理 事〕 浅井正三、石沢三郎、石沢徹、伊藤貫一、宇野光

雄、大出哲、加藤邦雄、三原武夫、山崎保興

〔幹 事〕 兩貝行磨、植木幹雄、近野亘、白井暢明、滝沢武

人、土屋博

二、公開講演会は秋に江別か旭川で行なう。

三、次期大会は北星学園大学において行なう。時期は北海道哲学会に続く月曜日。

四、基督教学第六号の編集委員は次の通りとする。

浅井正三、宇野光雄、加藤邦雄、近野亘、山崎保興、渡部

光男、土屋博、滝沢武人、白井暢明
研究発表会

1' W. Monselewski; Der barmherzige Samariter—Eine
auslegungsgeschichtliche Untersuchung zu Lukas 10,
25-37 (1957)

二、「真珠の歌」の平行記事

北星短大 三枝礼三
北大大学院 滝沢武人

三、エイレーナイオスの救済史観

北星学園大 加藤邦雄

四、理知的直覚主義粗描

北 大 植木幹雄

五、キエルケゴールにおける関係
の弁証法

酪農学園大 渡部光男

六、編集史的方法の射程

北 大 土屋 博

○公開講演会

十月二十日 於・酪農学園大学

「宗教と歴史」

北海道大学助教授 宇野光雄

「法思想に於ける基督教の影響」

北海道教育大学 旭川分校教授 高坂直之

新 入 会 員

井上 昌保 酪農学園大

江別市大麻園町十ノ五

執筆 者 紹 介

高坂直之 北海道教育大学旭川分校教授

三枝礼三 北星学園女子短期大学助教授

滝沢武人 北海道大学大学院

植木幹雄

北海道大学助手

荒木 関 巧

カトリック司祭

昭和四十六年六月三十日 印刷
昭和四十六年七月十二日 発行
基督教 第六号 会員頒布

編集代表者 中 川 秀 恭

発行者 日本基督教学会北海道支部

北海道基督教学会

札幌市北九条西七丁目

北海道大学文学部宗教学研究室内

(電話・札幌七一一二一一内線三六三)
(振替・小樽一三五九)

印刷所 文栄堂印刷所

札幌市北三条東七丁目